

エル・ネット「オープンカレッジ」 News

VOL.14 2003.3.28 発行

発行：高等教育情報化推進協議会 東京都港区虎ノ門1-17-1視聴覚ビル内 TEL：03-3591-2186 URL:http://www.opencol.gr.jp

平成14年度 エル・ネット「オープンカレッジ」 モデル事業 報告

高等教育情報化推進協議会では、昨年度に引き続き、エル・ネット「オープンカレッジ」の効果的な活用についてのモデル事業を、全国10地区に委嘱しました。今回は、各モデル事業について、それぞれの特色を中心に報告します。

◆モデル事業委嘱先

- 秋田県教育庁生涯学習課／○常磐大学生涯学習センター／○新潟県立生涯学習推進センター
- 石川県立社会教育センター／○静岡大学生涯学習教育研究センター
- 愛媛県教育委員会事務局生涯学習課／○徳島大学大学開放実践センター／○宮崎大学生涯学習教育研究センター
- 熊本県泗水町教育委員会生涯学習課／○琉球大学生涯学習教育研究センター

双方向質疑の 可能性を探る

秋田県教育庁生涯学習課

講座：千葉大学

『トライアングル「家庭・学校・地域」子どもを育てよう』

(明石 要一／千葉大学教授)

平成14年12月13日

*双方向質疑・ライブ放送実施

秋田県では、上記の講座において、双方向質疑を含む公開講座を実施しました。講座の会場は、メイン会場の秋田県総合教育センター（VSA T局）およびサブ会場（鷹巣町中央公民館・増田町ふれあいプラザ）の合わせて3会場です。講師が講義を行ったのは、国立科学博物館。その博物館とメイン会場とをエル・ネットによる双方向質疑ができるようにしました。サブ会場からはファックスでメイン会場へ質問を送れるようにしました。

送受信の概要は、以下のとおりです。



秋田県総合教育センター

東京（国立科学博物館）から発信した番組を、メイン会場とサブ会場を受信する。

サブ会場からの質問をファックスでメイン会場に送る。

メイン会場からの質問、およびサブ会場からの質問をメイン会場で取りまとめ、講師（東京）へ質問し、講師からの回答を各会場を受信する。

講義は、内容によって全体を3つに分けて進められました。各20分の講義があり、それぞれの講義の後、10分間、質疑応答の時間を設けました。間に10分間の休憩を入れながら、最後に

20分間、講師による全体のまとめがありました。質疑応答の時間ももちろん、最後のまとめの講義中も、双方向による活発な質疑応答が繰り返されました。双方向の利点は、リアルタイムの質疑応答だけではなく、その場の臨場感あふれる雰囲気も伝わることで

す。その他、主な特色としては、参加者層を考慮して、各会場に託児室を用意したことがあげられます。また、事前にスタッフ向けに衛星通信活用技術研修会を開催し、当日の運営に備えました。



国立科学博物館

大学の授業を そのまま提供

常磐大学生涯学習センター

講座：常磐大学

『ボランティアとミュージアム』

『水族館のヒミツ』①②

(坂井 知志／常磐大学助教授)

平成14年12月3・10日

*e-ラーニング講座開講

『ボランティアの理念と実際－災害
救援活動を例として－』

(吉永 宏／常磐大学教授)

平成14年12月17日



常磐大学 エル・ネット公開講座として一般の方に開放

常磐大学では、常磐大学コミュニティ振興学部の正規の授業を、エル・ネット「オープンカレッジ」公開講座として実施しました（「ミュージアム教育普及活動」を「水族館のヒミツ」、「災害救援ボランティア論」を「ボランティアの理念と実際」）。

常磐大学には、収録した番組を編集するためのAV機器やパソコンソフトが整備されており、専門スタッフも配置されています。そのため、収録や編集の両面にわたって、とても簡単に、また低コストで番組を作成することができます。

「水族館のヒミツ」は、大学の視聴覚教室で収録し、後日、収録内容と取材映像を編集し、「オープンカレッジ」講座として制作しました。大学の学生に対しては、収録ビデオを同科目の授業の際に視聴し、遠隔授業を再現した形態で受講してもらいました。

また、「ボランティアの理念と実際」では、本学の履修学生以外の受講者も意識し、それらの受講者ができるだけ臨場感を感じ、講座の内容を理解しや



常磐大学 本学学生の授業として

すいように考慮して収録をしました。

それぞれの講義の中では、教材としての取材映像、OHPによる写真資料など、視聴覚資料を多用し、より講座内容をわかりやすいようにしました。また、講座中、課題を複数回出すことにより、一方通行になりがちな受講形態を参加型にする工夫を凝らしました。

今回、新たな取り組みとして、講座を常磐大学で一般の方20名に受講していただきました。エル・ネット「オープンカレッジ」の受講は、全員がはじめてで、全国の大学のさまざまな講座を受講できるエル・ネット「オープンカレッジ」への期待の声がかげられました。

VSAT局のない県での エル・ネットへの 送信方法は？

新潟県立生涯学習推進センター

講座：新潟大学

『「にいがた連携公開講座」2002—
エル・ネット特別講座—』

『日本海がはぐくんだ地域と文化』

(原 直史／新潟大学助教授)

平成14年10月26日

*双方向質疑・ライブ放送実施

新潟県では、平成13年度から、県内市町村にテレビ会議システムで講座を配信する「にいがた連携公開講座」を実施しています。これは、県と市町村、高等教育機関等とが連携し、多様化・高度化する学習ニーズに応じた学習機会を提供することを目的としています。

今回のモデル事業では、この「にいがた連携公開講座」の中に、エル・ネ



新潟県立生涯学習推進センターでの受講風景

ット特別講座として、左記の講座を組み込んだ形で実施しました。講座をエル・ネットで発信することにより、より多くの県民に講座を届けるとともに、この取り組みを全国に紹介することも目的としています。

また、新潟県には、エル・ネットのVSAT局が設置されていないため、VSAT局のない県でのエル・ネットへの送信方法を探りました。

送受信の方法は、以下のとおりです。講師が講義を行っている新潟大学から、SCS（衛星通信による大学間ネットワーク）でアップリンクし、岐阜大学でそれを受信する。

岐阜大学から地上回線で岐阜県総合

教育センター（VSAT局）に送り、エル・ネットにアップする。つまり、SCSとエル・ネットを連結して放送した。

新潟大学と、新潟会場（県立生涯学習センター／新潟市）、村上会場（岩船広域教育情報センター／村上市）、十日町会場（十日町情報館／十日町市）とは、フェニックスで結んだ。新潟会場と村上会場からは、それぞれ受講者の意見発表が行われた。

SCSとエル・ネットを連結して放送するなどの方法により、VSAT局がなくても、エル・ネットへ発信できる方策があることが実証できました。



岩船広域教育情報センター会場からの意見発表

イベントと 組み合わせて実施

石川県立社会教育センター

講座：平安女学院大学
『ボランティア活動と社会参加』
『ボランティア活動と生涯学習』
(坂口順治／平安女学院大学学長)
平成14年10月11日
* 双方向質疑・ライブ放送実施

平成14年11月、「第14回全国生涯学習フェスティバル まなびピア石川2002」が石川県で開催されました。それに伴い、「第9回高齢者社会参加フォーラム2002 in 石川」が実施されました。このフォーラムの賛助講座として、エル・ネット「オープンカレッジ」の上記の講座を活用しました。また、石川県立社会教育センターで開催された「社教フェスタ」の1プログラムとしても、組み込みました。



高齢者フォーラムで発表する石川県民大学校大学院受講者

エル・ネット「オープンカレッジ」の中の講座を選択にするにあたっては、アンケート調査を実施しました。その結果、「高齢者の社会参加」に関連したテーマが求められていることがわかり、それについての講座を実施することとしました。

講師が講義を行っている国立科学博物館と、石川会場（石川県立社会教育センター）とを、テレビ会議システムで結び、双方向質疑を実施しました。石川会場では、コーディネーターに岡野絹江金城大学短期大学部助教授を迎

え、会場の質問をまとめていただきました。エル・ネット「オープンカレッジ」は、テーマによって、さまざまなイベントや研究会の分科会として活用することが可能であることがわかりました。専門性のあるものから生活に密着した内容のものまで、多様な内容の講座があつてよいのではないかと、という声が聞かれました。



石川県立社会教育センター

遠隔地からの実習指導を伴った講座

静岡大学生涯学習教育研究センター

講座：静岡大学
『やきもの考古学』
『やきもの考古学Ⅰ『日本陶磁史概説』』
『やきもの考古学Ⅱ『古代・中世の陶器とその復元』』
(柴垣 勇夫／静岡大学教授)
平成15年2月8・22日
* 双方向質疑・ライブ放送実施(一部)
* e-ラーニング講座開講

静岡大学では、静岡大学生涯学習教育研究センターの公開講座『きて見て静大』「やきもの考古学」(全5回)のうち、第1・2回目の講義をエル・ネット「オープンカレッジ」で放送しました。この2つの講座については、大学で独自収録し、エル・ネット「オープンカレッジ」放送当日は、その録画を放送しました。



静岡県総合教育センター

この講座では、やきもの出土品の復元作業が実習として行われました。遠隔地からの実習指導は、2回目の録画番組の放送後(2月22日/16:00~16:50)に、静岡県総合教育センター(VSAT局)にいる柴垣勇夫教授と、香川県教育センター(VSAT局)にいる受講者との間で実施しました。この実習の部分が、双方向質疑・ライブ放送です。香川会場では、埋蔵文化財専門員の方に補助をお願いして復元実習を行いました。

香川会場では、ライブ放送が開始される前の14:30から陶片の復元実習が行われており、15:00からはエル・ネット「オープンカレッジ」を視聴しながら学習を進めました。また、16:00か

らのライブ放送時には、講師と受講者との質疑応答の他、専門員による香川県の出土陶器に関する報告もありました。そのため、静岡の講師と香川会場の専門員との共同研究会の趣もありました。

この事業を通して、エル・ネットを用いて、遠隔地間で実技・実習をとまなう講座を実施する可能性が確認されました。エル・ネット「オープンカレッジ」を活用して、こうした実技・実習を伴う講義形態も考えられました。



香川会場：香川県教育センター



大学の講義を 幅広く提供する

愛媛県教育委員会事務局生涯学習課

講座：愛媛大学

『街がはぐくむ演劇、演劇がはぐくむ街』

①「レビューが生まれた街－進化する演劇都市、宝塚－／ブロードウェイ・ミュージカルの世界とニューヨーク」

(今泉志奈子／愛媛大学講師、大野一之／愛媛大学助教授)

②「町民劇場の保存と地域づくり／フランス演劇の舞台をめぐる－パリの劇場とアヴィニョンの演劇祭」

(柳 光子／愛媛大学助教授)

③「内子座（愛媛県内子町）とグローブ座（ロンドン）／オペラとオペレッタの街、ウィーン」

(井上 彰／愛媛大学助教授、安藤秀國／愛媛大学教授)

平成14年12月6、7、21日

* 双方向質疑・ライブ放送実施（一部）

愛媛県では、愛媛大学の講座を住民に幅広く提供するため、エル・ネットを活用した効率的な遠隔教育の実施方法について探りました。

愛媛大学の上記の講座を大学独自収録し、愛媛県総合教育センター（V S A T局）から配信しました。そして、県内の3施設（新居浜市立別子銅山記念図書館、愛媛県立中央青年の家、内子町内子東自治センター）において、公開講座を開催しました。

講座1、2回目は、講座終了後に受講者に質問票を記入してもらい、その内容を集計して大学に送り、最終日までに、講師が回答を準備することができました。3回目には、講座の録画放送中からファックスで質問を受け付

け、講座終了後に前回までの質疑内容と併せて講師が回答しました。その質疑応答の部分で、双方向質疑・ライブ放送が実施されました。

原則として全3回とも受講することとしましたが、1回のみ受講も認め、多くの人にエル・ネット「オープンカレッジ」に触れる機会を提供しました。この事業によって、エル・ネットについて、また、大学の講義の雰囲気について、広く県民に関心を持ってもらうきっかけとなりました。



愛媛県総合教育センター

講義中に チャットで質問

徳島大学大学開放実践センター

講座：徳島大学

『ホノルルマラソンをインターネット中継しよう!』

①「暮らしをつくるパソコン・インターネット」／②「技術に向かう楽しさ」／③「インターネットライブ中継システムの構築」

(吉田敦也／徳島大学教授)

平成15年1月16・23・30日

*チャットによる双方向質疑実施

*e-ラーニング講座開講

徳島大学大学開放実践センターでは、パソコン・インターネット活用総合学習講座「ホノルルマラソンをインターネット中継しよう!」という講座を開講しています。この講座では、インターネット学習のステップアップとして、ホノルルマラソンのライブ中継

に取り組みました。この徳島大学の講座を大学独自収録によりコンテンツ化し、上記のエル・ネット「オープンカレッジ」の講座として開講しました。

エル・ネットの放送とともに、インターネット上でのストリーミング配信、チャットを用いたリアルタイム質疑応答、ならびに受講者間交流、さらにインターネットによるe-ラーニングシステムなども実施しました。まさに、インターネットについて、インターネットで学習する講座となりました。

特に、講義放送中に実施されたチャ



エル・ネット移動受信装置と受講者

ットによる質疑応答は、リアルタイムでの双方向性が実現します。質問にすぐに講師が応えてくれる、ということだけあって、放送中も講師に対する質問が絶えませんでした。また、受講者の質問に受講者が答えるという場面も見られ、受講者間の交流も見られました。また、インターネットの参加を通じて、他会場や他県の受講者との交流も実現しました。インターネットによって、学習の輪が広がっていく有意義な講座となりました。



とくしまITビレッジ

2大学共同での 講座構成

宮崎大学生涯学習教育研究センター

講座：宮崎大学・島根大学

『日本文化の源流を探る一日向と出雲の神話と芸能』

①「日向神話にみられる日本文化」(山田利博/宮崎大学助教授)

②「出雲神話にみられる日本文化」(藤岡大拙/島根県立女子短期大学学長)

③「出雲の神楽・芸能にみられる日本文化」(白石昭臣/前島根県立国際短期大学教授)

④「日向の神楽・芸能にみられる日本文化」(山口保明/宮崎県立看護大学教授)

⑤「日本文化の源流を探る」(全講師)

平成15年1月18・25日・2月1・15日

* 双方向質疑・ライブ放送実施 (一部)

このモデル事業では、宮崎大学と島根大学との連携によって、連続講座を制作しました。講座は、宮崎と島根に伝わる神話や伝統芸能(神楽)の分析を通じて、日本文化の源流を探る内容です。共通テ

ーマのもと、異なる二県の地域素材をプログラムするという試みを行いました。

この講座の特徴は、以下のとおりです。

全5回とも、宮崎市のV S A T局(宮崎市教育情報センター)から全国に放送しました。全5回のうち、第3回までが録画放送、第4、5回目がライブ放送です。

第5回目では、宮崎会場(宮崎市教育情報センター)と島根会場(島根大学)とを、テレビ会議システムで結び、全講師によるパネルディスカッションを行いました。

第5回目で、宮崎会場(宮崎市教育情報センター)と宮崎県内の3会場(南郷ハートフルセンター・えびの市民図書館・日向市立日知屋公民館)、島根会場(島根大学)をテレビ会議システムで結び、ライブで双方向質疑を行いました。また、全国の受講会場からファックスによる質問を受け付け、ライブでその回答を行いました。第3回目で、事前に収録した島根県で見られる神楽の演舞を映像資料として取り入れました。



宮崎大学



島根大学

第4回目で、地元神楽保存会の方による神楽の実演を行い、いっそう臨場感のあるライブ放送を行いました。

受講者は、宮崎と島根にかかわる神話、神楽と芸能についての内容を詳しく学習することができたようです。第5回のパネルディスカッション、ライブでの双方向質疑応答などは特に好評で、両地区の連携による効果が見られました。

多様化する 学習ニーズに応える

熊本県泗水町教育委員会生涯学習課

講座：淑徳短期大学

『21世紀生涯学習への招待』

①「これからの社会と人生の完成」/②「ともに学ぶ地域と私」

(浅井経子/淑徳短期大学教授、山本恒夫/筑波大学名誉教授)

平成14年12月14日

* 双方向質疑・ライブ放送実施

熊本県泗水町中央公民館では、週2回程度、エル・ネット「オープンカレッジ」を活用し、メニュー選択型の講座を展開しています。

これは、住民の多様な学習ニーズに応えるために、各大学のさまざまな公開講座を公民館で実施したものです。

地域住民が、気軽に受講できるように体制をつくることを目指しました。

泗水町中央公民館では、録画した講座のビデオ貸し出しも行っています。

特に、上記の講座では、テレビ会議システムを利用して、講師のいる東京会

場(国立科学博物館)と泗水町中央公民館とを結び、双方向での質疑応答を実施しました。その後、講座受講者との意見交換会、アンケート調査を行いました。双方向質疑応答は非常に好評で、積極的な質疑応答が行われました。

今後、さらに自ら学びたいという地域住民に学習機会を提供できる体制を、より身近に広げていくよう検討していきます。



泗水町中央公民館



国立科学博物館

受講生は高校生

琉球大学生涯学習教育研究センター

講座：琉球大学

『琉球と中国・アジアとの交流史』

①「琉球王国と首里城／琉球とアジアの交流」(高良 倉吉／琉球大学教授)／②「琉球の詩人と中国／漢詩に読まれた琉球」

(上里 賢一／琉球大学教授)

平成15年1月7・14日

* 双方向質疑・ライブ放送実施

琉球大学では、エル・ネット「オープンカレッジ」を活用して、琉球大学の公開講座を沖縄県教育委員会との連携による高大連携事業として実施しました。県内高校生に大学レベルの教育に触れる機会を提供することを目的としています。

講座は、エル・ネットの機材設備のある沖縄県総合教育センター（VSA



沖縄県総合教育センター

T局)に高校生を招いて実際に講義をし、その様子を大学独自で収録しました。講義ではテレビモニターを使用して、事前に撮影した風景や編集した資料を示しながら進めました。そのビデオを放送用に編集し、エル・ネット「オープンカレッジ」放送当日にはVSA T局から放送しました。このビデオの放送終了後、すぐに生放送に切り替え、サテライト会場(県内高校、教育事務所など)で視聴している高校生と電話によるライブの質疑応答を行いました。



沖縄県総合教育センター

県内の離島を含む7つの高校、延べ409人の高校生が受講しました。

電話による質疑応答は、非常にリアルタイムで臨場感があり、好評でした。

平成15年度リクエスト放送 5月から放送開始

講座の内容、放送の日時は変更されることがあります。ご了承ください。

平成15年度のエル・ネット「オープンカレッジ」は、平成15年5月から放送を開始する予定です。5月から、これまで提供された講座の中から好評だったものを再放送します。毎週火曜日・木曜日・金曜日の午前中と、土曜日の午後に、2チャンネルで放送します。受講は無料です。是非ご利用下さい。

5月

日付	実施大学／時間／講座名／回数／テーマ／講師
6日(火)	平安女学院大学 10:00~11:30 『ボランティア活動と社会参加』『ボランティア活動と生涯学習』 坂口 順治(平安女学院大学・平安女学院大学短期大学部 学長)
8日(木)	創価大学 10:00~11:40 『21世紀と「心」の教育』①「心の世紀と心理学Ⅰ—ストレス社会をどう生きるか—」 鉤 治雄(創価大学教授)
9日(金)	淑徳大学 10:00~11:50 『「源氏物語」への謎—その全貌早分かり—』①「光源氏の誕生と形代への愛」 宮川 葉子(淑徳大学教授)
10日(土)	新潟大学 13:00~14:50 『腎臓病Q&A』①「内科が扱う腎疾患のQ&A」 下条 文武／鈴木 芳樹(新潟大学大学院教授・新潟大学医学部附属病院院長新潟大学教授)
10日(土)	流通経済大学 15:00~16:50 『インターネット社会では積極的に働きかけて生活しよう』①「インターネット社会の生活者は世界を学習する」 井川 信子(流通経済大学助教授)
13日(土)	お茶の水女子大学 10:00~11:50 『天才の栄光と挫折』『天才の栄光と挫折』 藤原 正彦(お茶の水女子大学教授・附属図書館長)
15日(木)	創価大学 10:00~11:40 『21世紀と「心」の教育』②「心の世紀と心理学Ⅱ—現代人と心の健康—」 鉤 治雄(創価大学教授)
16日(金)	淑徳大学 10:00~11:50 『「源氏物語」への謎—その全貌早分かり—』②「光源氏の栄華と終焉」 宮川 葉子(淑徳大学教授)
17日(土)	新潟大学 13:00~14:50 『腎臓病Q&A』②「小児科、泌尿器科が扱う腎疾患のQ&A」 内山 聖／高橋 公太(新潟大学大学院教授・新潟大学大学院教授)
17日(土)	流通経済大学 15:00~17:00 『インターネット社会では積極的に働きかけて生活しよう』②「インターネット社会の企業は現場社員が活躍する」 崔 光(流通経済大学助教授)
20日(火)	八戸大学 10:00~11:50 『「文学」と「ことば」の世界』①「サン・テグジュペリと宮沢賢治—『星の王子様』と『銀河鉄道の夜』をめくって—」 野村美佐子(八戸大学助教授)

22日 (木) 創価大学 10:00~11:50
『21世紀と「心」の教育』③「日・米の少年院における矯正教育」
佐瀬 一男 (創価大学教授・行政教育センター長)

23日 (金) 淑徳大学 10:00~11:55
『源氏物語』への読み—その全貌早分かり—』③「宇治十帖」
宮川 葉子 (淑徳大学教授)

24日 (土) 新潟大学 13:00~14:50
『腎臓病Q&A』③「腎疾患の基礎研究のQ&A」
山本 格/追手 颯/清水不二雄
(新潟大学大学院教授・新潟大学大学院教授・新潟大学教授)

24日 (土) 流通経済大学 15:00~16:00
『インターネット社会では積極的に働きかけて生活しよう』③「インターネット社会の商品やサービスの販売をうまく利用する」
中村 博 (流通経済大学教授)

27日 (火) 八戸大学 10:00~11:50
『「文学」と「ことば」の世界』②「複数表現再考—接尾語「たち」の流行をめぐって—」
小澤 昭夫 (八戸大学助教授)

29日 (木) 岡山大学 10:00~11:30
『池田家文庫にみる江戸時代』①「古文書編」漂流民と朝鮮通信使
倉地 克直 (岡山大学教授)

30日 (金) 岡山大学 10:00~11:40
『池田家文庫にみる江戸時代』②「絵図編」国絵図の世界
倉地 克直 (岡山大学教授)

31日 (土) 早稲田大学 13:00~14:50
『エジプト考古学入門』①「エジプト史概観」
近藤 二郎 (早稲田大学助教授)

31日 (土) 早稲田大学 15:00~16:50
『エジプト考古学入門』②「エジプトの発掘研究」
近藤 二郎 (早稲田大学助教授)

6月
日付 実施大学/時間/講座名/回数/テーマ/講師

3日 (火) 東京音楽大学 10:00~12:00
『鑑賞のための音楽と楽譜の歴史』①「バロック/演奏を通して聴く、楽譜の変遷」
丸山 桂介 (東京音楽大学専任講師)

5日 (木) 東北大学 10:00~11:50
『テストの話』①「科学とNAEP」
村木 英治 (東北大学大学院教授)

6日 (金) 東京外国語大学 10:00~11:50
『人・ことば・文化』①「ことばが消えるとき」
中山 俊秀 (東京外国語大学助教授)

7日 (土) 静岡大学 13:00~14:50
『やきもの考古学』①「やきもの考古学I (日本陶磁史概説)」
柴垣 勇夫 (静岡大学教授)

7日 (土) 静岡大学 15:00~16:50
『やきもの考古学』②「やきもの考古学II (古代・中世の陶器とその復元)」
柴垣 勇夫 (静岡大学教授)

10日 (火) 東京音楽大学 10:00~12:00
『鑑賞のための音楽と楽譜の歴史』②「古典派~ロマン派における楽譜の位置付け/20世紀の音楽」
武石みどり/沼野 雄司 (東京音楽大学専任講師・東京音楽大学専任講師)

12日 (木) 東北大学 10:00~11:50
『テストの話』②「古典的テスト理論と項目反応理論」
村木 英治 (東北大学大学院教授)

13日 (金) 東京外国語大学 10:00~11:50
『人・ことば・文化』②「海をこえて伝わったことばたち」
菊澤 律子 (東京外国語大学助教授)

14日 (土) 中部大学 13:00~14:45
『アジア地域の風土と農耕文化—循環型社会を考える—』①「日本の風土と農耕文化—伝統的食文化を考える—」
谷山 鉄郎 (中部大学教授)

14日 (土) 中部大学 15:00~16:30
『アジア地域の風土と農耕文化—循環型社会を考える—』②「アジア地域の食糧自給と地球環境—循環型社会を考える—」
谷山 鉄郎 (中部大学教授)

17日 (火) 東京音楽大学 10:00~11:55
『鑑賞のための音楽と楽譜の歴史』③「民族音楽の楽譜の変遷~ガムランを例に~ / 楽譜からみえる文化と歴史~まともにかえて~」
丸山 桂介 (東京音楽大学専任講師) 他

19日 (木) 東北大学 10:00~11:50
『テストの話』③「コンピュータを使ったテストとWebを使ったテスト」
村木 英治 (東北大学大学院教授)

20日 (金) 筑波大学 10:00~11:50
『遺伝子がつくる文明』『人類が遺伝子を操作してつくる文明/遺伝子が人類を操作してつくる文明』
林 純一 (筑波大学教授・生物学類長)

21日 (土) 茨城大学 13:00~14:50
『オリンピックの人間学』①「近代オリンピックとスーパー人間」
国枝タカ子/伊藤 公/後藤 忠弘
(茨城大学講師・オリンピック評議者、日本オリンピック・アカデミー・広報委員長)

21日 (土) 金沢大学 15:00~16:50
『剣道の初心者指導のノウハウ』『剣道の初心者指導のノウハウ』
恵土 孝吉 (金沢大学教授)

24日 (火) 久留米信愛女学院短期大学 10:00~11:50
『親子の読み聞かせ~子ども心に金の鈴を~』『幼児期は耳の時代~語る喜び、聞く喜び~』
高土 與市 (久留米信愛女学院短期大学教授・図書館長)

26日 (木) 佛教大学 10:00~12:00
『美に遊び、美に学ぶ—美術鑑賞の新潮流・つくる人との出会い—』『美に遊び、美に学ぶ—美術鑑賞の新潮流・つくる人との出会い—』
大橋 功 (佛教大学助教授)

27日 (金) 佛教大学 10:00~11:50
『愛宕信仰と火の祭礼 (京都の民俗信仰)』『愛宕信仰と火の祭礼 (京都の民俗信仰)』
八木 透 (佛教大学教授)

28日 (土) 茨城大学 13:00~14:50
『オリンピックの人間学』②「古代ギリシャ人とスポーツ」
国枝タカ子/藤本 復礼 (茨城大学講師・元茨城キリスト教大学学長)

28日 (土) 茨城大学 15:00~16:55
『オリンピックの人間学』③「女性、民族、オリンピック理念の可能性」
国枝タカ子 (茨城大学講師)

7月
日付 実施大学/時間/講座名/回数/テーマ/講師

1日 (火) 仙台大学 10:00~11:55
『スポーツと健康』①「温熱環境と健康・スポーツ」
高橋 弘彦 (仙台大学助教授)

3日 (木) 長崎大学 10:00~11:30
『まちづくりと大学生涯学習』①「地域活性化とその担い手育成のまちづくり」
新田 照夫 (長崎大学助教授)

4日 (金) 名古屋大学 10:00~11:50
『無線通信システム入門』①「情報通信システムの仕組みと原理」
片山 正昭 (名古屋大学教授)

5日 (土) 北海道医療大学 13:00~14:50
『職場のメンタルヘルス—はたらく人の“こころ”の健康を考える—』①「職場のメンタルヘルス入門—勤労者の職場ストレスとメンタルヘルスの現状—」
斎藤 和雄 (北海道検診センタークリニック院長)

5日 (土) 神戸大学 15:00~15:45
『生命、生活、環境を脅かすもの: 技術の挑戦と反逆する自然』①「BSEの発生過程と行政の対応」
高木 道浩 (神戸大学助手)

8日 (火)	仙台大学 10:00~12:05 『スポーツと健康』②「レクリエーション活動と健康」 仲野 隆士 (仙台大学助教授)
10日 (木)	長崎大学 10:00~11:50 『まちづくりと大学生涯学習』②「転換期の地域社会と住民主体のまちづくり」 新田 照夫 (長崎大学助教授)
11日 (金)	名古屋大学 10:00~11:50 『無線通信システム入門』②「くらしに役立つ通信理論—携帯電話の効率化をはかるための技術—」 山里 敬也 (名古屋大学助教授)
12日 (土)	北海道医療大学 13:00~14:50 『職場のメンタルヘルス—はたらく人の“こころ”の健康を考える—』 ②「職場のメンタルヘルスと“こころ”の病気」 上野 武治 (北海道大学医療技術短期大学部教授)
12日 (土)	神戸大学 15:00~15:55 『生命、生活、環境を脅かすもの：技術の挑戦と反逆する自然』②「草を食む牛を育てる草原を守る」 津川 兵衛 (神戸大学教授)
15日 (火)	仙台大学 10:00~11:50 『スポーツと健康』③「バランスと転倒予防」 橋本 実 (仙台大学助教授)
17日 (木)	長崎大学 10:00~11:40 『まちづくりと大学生涯学習』③「大学生涯学習とまちづくり」 新田 照夫 (長崎大学助教授)
18日 (金)	名古屋大学 10:00~11:50 『無線通信システム入門』③「コンピュータネットワークと無線LAN」 岡田 啓 (名古屋大学助手)

19日 (土)	北海道医療大学 13:00~14:50 『職場のメンタルヘルス—はたらく人の“こころ”の健康を考える—』 ③「職場のメンタルヘルスと“からだ”の病気」 久村 正也 (北海道医療大学教授)
19日 (土)	神戸大学 15:00~16:00 『生命、生活、環境を脅かすもの：技術の挑戦と反逆する自然』③「生き物に落ちた熱帯林を守る」 湯本 貴和 (京大大学助教授)
22日 (火)	岐阜大学 10:00~11:55 『霧は語る—霧は地域環境変化のリトマス試験紙—』『霧は語る』 野元 世紀 (岐阜大学教授)
24日 (木)	岡山商科大学 10:00~11:50 『瀬戸内芸予諸島の風土と地域開発』①「中世期石造物の分布と石材」 ／「近世後期の産業開発と地域の変容」 土井 作治／佐藤 昭嗣 (岡山商科大学教授・岡山商科大学助教授)
25日 (金)	岡山商科大学 10:00~11:50 『瀬戸内芸予諸島の風土と地域開発』②「果樹園経営者による共同経済活動」 ／「生名村の塩田経営の実態」 喜田栄次郎／岡嶋 隆三 (岡山商科大学教授・岡山商科大学助教授)
26日 (土)	琉球大学 13:00~14:50 『琉球と中国・アジアとの交流史』『琉球王国と首里城』『琉球とアジアの交流』 高良 倉吉 (琉球大学教授)
26日 (土)	琉球大学 15:00~16:50 『琉球・中国の文化交流史とその遺産』『琉球の詩人と中国』『漢詩に詠まれた琉球』 上里 賢一 (琉球大学教授)

URL: <http://www.opencol.gr.jp>
ですべての講座の詳細情報が得られます

- ◆メールマガジンを毎週水曜日に無料で配信しています。講義スケジュールや最新情報をお届けします。配信を希望される方は下記ホームページからご登録ください。
- ◆放送日及び講座内容は変更されることがあります。ご了承ください。また、天候により番組を見ることができない場合があります。
- ◆講座内容、テキスト等詳細については、下記ホームページでご確認ください。
- ◆問い合わせ 高等教育情報化推進協議会 電話03-3591-2186

www.opencol.gr.jp

文部科学省『エル・ネット』 ホームページがリニューアル しました!!

エル・ネットのホームページが4月から新しくなりました。新着情報がトピックス欄からすぐに入手でき、放送番組スケジュールや受信局一覧もアクセスしやすくなりました。

また、インターネットでエル・ネット受信局からのリクエストを受け付け、ご希望のデジタルデータを希望する日に衛星通信で送信する「コンテンツ配信システム」のトップページにもアクセスできます。このシステムでは、今後、映像を含む大容量のコンテンツも提供していく予定ですので、是非ご利用ください。

アドレスは

http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/elnet/

または文部科学省ホームページ

<http://www.mext.go.jp/>

からエル・ネットをクリック!

